

2025年度大学院博士前期課程学内選考試験問題

研究科名	科目名
文学研究科 人文学専攻 仏教学専修	選択問題

(1) 次の問題のいずれかを選択して解答してください。

- ① 本生譚について詳しく説明してください。
- ② 「民俗仏教」の特徴について詳しく説明してください。

(2) 次の項目のうち4つ選び、それぞれ詳しく説明してください。

- ① 『大乘起信論』
- ② 四門出遊
- ③ アーナンダ (阿難)
- ④ 六波羅蜜
- ⑤ 弥勒信仰
- ⑥ 廃仏毀釈
- ⑦ 葬式仏教
- ⑧ 神仏習合
- ⑨ 柳田國男
- ⑩ 御霊信仰

解答または解答例：

Sample Answer(s) or Outline：

(1) ①本生譚（ジャータカ）とは、釈迦が成仏以前に無数の生を輪廻し、その過程で菩薩として行った善行や修行を物語化した説話群である。インド仏教においては、現世での釈迦の徳性や覚りの正当性を示すため、過去世の積善が強調される点に特徴がある。内容には動物を主人公とする寓話的なものから、人間として布施・忍辱を実践する道徳的物語まで多様であり、仏教倫理の具体的実践例として広く親しまれてきた。また、ジャータカは経典だけでなく壁画・彫刻などの造形表現にも取り入れられ、仏教美術の重要な主題ともなった。さらに東南アジアやチベット、日本の説話文学にも影響を及ぼし、地域ごとの物語や民間信仰と結びつきながら独自の展開を見せた。したがって本生譚は、釈迦の理想的人格を示すとともに、仏教が各地で受容・変容する過程を理解する上でも重要な資料である。

(1) ②民俗仏教とは、「成立宗教」としての仏教が地域社会の「民俗宗教」と接触し、土着化する過程で形成された習合的な形態を指す。その構造には、仏教が在地慣習に傾斜して変容する「仏教の民俗化」と、仏教が在地の信仰体系に教理的な意味付与を行い取り込んでいく「民俗の仏教化」という双方向の力学が働く。地域共同体の伝承に基づき継承される「民間信仰」がその基層をなしており、固定化された教義を欠く共同祭祀や集団信仰がその実態である。民俗仏教という概念は、制度化された仏教の枠組みを相対化し、自然信仰や精霊信仰、先祖崇拝が仏教と交渉・混淆しつつ機能し続ける「生きた宗教現象」の重層性を記述するための視座を与える。これは、既成仏教の教理を超えた民衆の受容実態を解明する上で不可欠な分析枠組みである。また、葬送や追善供養を核とする庶民の靈魂観が日本仏教の特質であることを析出する側面もある。本概念は、教団史に回収されない重層的な信仰の在り方を浮き彫りにする。

(2)

① 『大乘起信論』

如来蔵思想の系統に立つ大乘仏教の論書。インドの2世紀の有名な仏教詩人の馬鳴の作と伝えられているが、サンスクリット原典もチベット語訳も残っておらず、実際の成立は五から六世紀頃と推定されている。本書はインドでの成立が疑われており、中国撰述説もある。ただし、大乘仏教の中心思想を理論と実践の両面から要約しているため、古来、中国・日本の仏教各宗の思想や教義に大きな影響を与えた。(185字)

② 四門出遊

釈迦がまだ太子であったころ、都の東・南・西・北にある四つの城門を出て、それぞれ老人・病人・死人・沙門の姿を目撃し、深く心に感じる場所があって、出家を決意したという伝説のこと。(88字)

③ アーナンダ（阿難）

釈迦の従弟で十大弟子の一人。「多聞第一」と称され、釈迦の説法を最も多く聞き記憶した。結集において経典伝承の中心的役割を果たし、仏典成立に大きく貢献した。(77字)

④ 六波羅蜜

大乘の菩薩が修行すべき六つの徳目で、布施・持戒・忍辱・精進・禪定・智慧から成る。悟りを求めつつ衆生利益を行う菩薩道の具体的実践法として重視された。(73字)

⑤ 弥勒信仰

未来に弥勒菩薩が下生し、仏となって人々を救済するという思想。末法観の広がりとともに広く信仰され、日本でも弥勒像の造立や来迎思想と結びついて発展した。(74字)

⑥ 廃仏毀釈

廃仏毀釈とは、寺院や僧侶を排斥する運動を指す。江戸期の儒教思想や寺請制度による民衆収奪への反発を背景に、明治期の神仏分離令を経て激化した現象である。国学や神道国教化政策と結びつき、全国で文化財消失や廃寺を招いた。(106字)

⑦葬式仏教

一般的に「葬式仏教」とは、寺院の活動が葬儀や追善供養などの死者儀礼に特化した状態を指す。江戸期の寺請制度により寺院が行政末端化し、教理や修行よりも世俗的な収奪や儀礼の形式化が進んだことで批判的に用いられるが、死者供養を通じて仏教が生活実践に根付く基盤となった側面もある。(136字)

⑧神仏習合

神仏習合とは、外来の仏教と土着の神祇信仰が混淆した信仰形態を指す。神宮寺の建立や本地垂迹説の展開をもたらした。神が権現の名を冠するなど、両者は分かちがたく混淆し、庶民の間に広く浸透した。(93字)

⑨柳田國男

日本の民俗学の創始者で、地域の伝承や習俗を調査し、「常民」の視点から日本人の精神構造を解明しようとした。独自の靈魂観を通じて「固有信仰」の体系化に努めた。一方、その手法は、日本文化を等質的、連続的なものとみなす傾向が強く、地域差や非農業民の特性を捨象したと批判される側面もある。(139字)

⑩御霊信仰

御霊信仰とは、非業の死を遂げた怨霊の崇りを畏怖し、これを鎮め祀ることで安穩を得ようとする信仰である。安定を失った死霊を怨霊と呼び、御霊会を通じて神格化が進んだ。平安期に盛んとなり、早良親王や菅原道真などの失脚者が特定の靈格として崇められた。

(120字)

出題意図：

Purpose of Question：

仏教学を専攻する大学院生として必要な知識を修得しているかを評価すること。